報告

環境文明社会を実現するために
―環境文明21　全国交流大会―

事務局

10月30日午後、千代田区の駿河台にある（財）総評会館で当会全国交流大会が開催された。まず当会共同代表の加藤三郎から表題のテーマについての趣旨説明、また「環境文明社会プロジェクト」の2年目までの成果について、同じく当会共同代表の藤村コノヱから報告が行われた。

当日は台風14号が接近し、あいにくの雨風の影響で交通機関が乱れたにもかかわらず、熱心な会員各氏の参加があり、3つのグループに分かれて、いくつかのテーマについて活発な意見交換や討議が行われた。このグループ討議で出てきた多彩な意見をここで紹介したい。

趣旨説明

加藤三郎

当会が環境NPOとして活動を始めたのが17年前。「21世紀の環境と社会を考える会」という名前でスタートした。その後、株式会社にしたとき、会の名前が「環境文明」に変わった。当初は「環境文明」という言葉について、「環境」と「文明」と分けて考えていたが、3年ほど前から、「環境文明」という文明がありうるかもと思い始めた。

「環境文明社会」については、三井物産環境基金の助成金を受け、3年にわたって研究している。もちろん3年程度で結果の出るようなテーマではないので、今後も何らかの形で研究を続けていくつもりだが、今年がスタートして3年目ということで、ある程度の研究結果について報告できればと思っている。

この環境文明社会は今とどう異なるのかを考えてみると、①人々が大切だと思う尺度（価値観）が変わる、②人の暮らしや文化が変わる（食べる・働く・住む・移動する・楽しむ・学ぶ）、③教育（学校･社会･職場）が変わる、④政治、経済、技術も変わるということが言える。

今日は、これから創り出していく環境文明社会を実現するためのアイデアや方策について、参加者の皆さんからご意見をいただき、少しでも実現に近づけたらと思っている。

環境文明社会プロジェクトのこれまでの成果

藤村　コノヱ

地球の有限性という基本認識を持ち、その中で大切にされるべき価値を探り、実現のための方策を考えていくのがこのプロジェクトの大きな目的。具体的には、（ア）環境文明社会の社会像の具体化と実現に向けた方策を探ること、（イ）政策提言としてまとめ情報発信していくこと、（ウ）参加型政策提言活動のモデルを提案することである。

これについて、専門家や研究者による総論を議論するAグループ、具体的な暮らしの姿を示していくＢグループ、議論の進め方を検討するCグループに分かれて作業を進めてきた。

その概要については、会報6月号と8月号に掲載しているが、今日はそのうちの「大切にされる価値」について、皆さんのご意見を聞きたいと思っている。

グループ討議

参加者を3つのグループに分けて、①環境文明社会で大切にされる価値とは何か、②その価値観は社会で受け入れられるのか、③その価値を浸透させるにはどうすればいいのか、またその際のNPOの役割は何か、について意見交換した。

それぞれのグループで、多岐にわたる意見が出されたが、ここでは、それら意見をテーマごとにランダムに紹介したい。

①環境文明社会で大切にされる価値とは何か？

事務局としては、「互助」「利他」「中庸」「ほどほど」などを提案したが、こうした価値について参加者から以下のような意見が出された。

＊途上国にいる人と、先進国の人を比べても「ほどほど」の意味は全く違う。互助・利他・ほどほどなどを議論するときに、人がそれぞれ違うレベルにいたら話が合わないと思う。

＊互助や利他が実際に出来るか疑問を感じる。現在個室や個別的な考えが優先されてきている。その中で納得できるだろうか、実現されるかは正直なところ分からない。

＊互助、利他は納得できる。しかし「ほどほど」はどうにも納得いかない。ほどほどにやっていて何とかなる程現実は甘くない。

＊ほどほどなどを実践している人は少ないが、こういうものを掲げるのはいいことだ。まず理想を掲げることが大切。

＊ほどほどなどの概念は、人の良心によるものだが、それを実現するには税などの制度が必要となってくるのではないか。

＊「互助・利他」、「中庸・ほどほど」は大切な概念だが、様々な文化の違いを認め、全体主義にはならないようにすべき。

＊「中庸・ほどほど」は美徳だが、実際に経済は、そうでない価値で動いている。現実とのギャップが大きい。

＊実際、若い世代の人たちに利他は感じられない。成長期の世代と成熟期の世代では考えが違う。

＊最近、若い人たちの間で、「断捨離（物を捨て、所有せず、物への執着から離れる）」という考え方が広まりつつある。物質にとらわれず、シンプルに暮らすことに幸せを感じる若者が増えている。

＊中庸やほどほどは、最終的に落ち着くところ。しかし、いきなりはそこにはいけない。人生の中で、トータルで考えるものだ。年代的にも、自分はまた40で頑張らなければいけない時期にあると思う。活力のためには、頑張りは必要なことであり、ほどほどというのは難しい。

＊ほどほどは非常に消極的な発言になっている。やるならば徹底的に考えていく必要がある。「足るを知る」にしても、ほどほどに考えていたのではいけない。徹底的に議論し考え抜き、そこにたどり着かなければいけない。

②こうした価値観は社会で受け入れられるか？

＊コミュニティでの生活の中での教えや価値観の共有化が大事なのではないか。
＊「互助・利他」の考え方は公共性にも通じる。
＊「中庸・ほどほど」は美徳の概念で、仏教、儒教、イスラム教などにも通じる。
＊こうしたことが強制されると、企業は日本から逃げてしまう。制度的な担保がないとだめではないか。加えて、地域社会を成り立たせるための仕組みが必要で、地域収入がないと分配もできない。
＊日本だけが環境文明社会にむかったとしても、隣国などでどんどん経済的に大きくなっていくことがあっていいのか。国際的な考え方を持つことが必要。
＊日本は無宗教でありながら、神社や仏閣が昔から根付いている。一方、欧米は宗教国家である。そのことから考えても、日本には、よりこうした価値を受け入れる基盤はあるのではないか。
＊例えば、国と国の関係でほどほど・利他などはなかなか成り立たないのではないか。
＊イケイケどんどんはだめだと分かった。しかし、どうすればよいのかが出てこない。ほどほどはよいが、どうすればほどほどになるのかが問題。
＊国レベルでは難しい。しかしコミュニティレベルなら、利他は可能だと思う。
＊お金、経済以外の価値観がほしい。2030年は、今の延長上ではないと思う。

③その価値を浸透させるにはどうすればいいのか。その際のNPOの役割は何か？

＊価値の浸透には、「教育」と「宗教の復活」が大切だ。困った時の教育頼みだが、教育が大切なことに変わりはない。

＊学校教育の場で、道徳教育や倫理教育を行うことが大事。
＊しつけ教育など、親から子への教育、そして親そのものの教育が大事。
＊政治の役割として、SRIを徹底し、制度化してほしい。
＊教育の場として、家庭、学校、地域社会、企業などがある。この中で、企業が果たすべき役割は大きい。
＊そもそも、働く場やセーフティネットがないと、価値観について話し合う余裕がなくなる。
＊神社や仏閣を巻き込んだものにすればいいのではないか。
＊EQ（Emotional Intelligence Quotient）の反映。10人くらいでもコミュニケーションはままならない。そういうものをEQで強めるきっかけになる。こういったものは宗教とかでなくプログラムが必要。言い換えると、あえてプログラムにしなければいけない。
＊特区のようなものでやってはどうか。
＊環境バイブルを作って、小学生に教育してはどうか。
＊NPOに政治家を入れるとよいのではないか。実際に物事を動かしているのは政治家である。NPOはど

んどんいろいろな分野に入っていけばよい。
＊40代を動かすには政治を動かすより方法はない。
＊低炭素社会との違いは、価値観が入っていること。例えば、富山あたりで、第一次産業をベースにした地域づくりの方向性が出せると、おもしろい。今後は地域での実践が重要になるのでは。
＊地域では自然を活かした産業が必要。それには時間がかかるが、地域の雇用につながるような、展開のストーリーが必要。環境文明21にそれだけの人材がいるとは思えないので、今後は、地域との連携をどうとっていくか、その方向性だけでも、本プロジェクトで示せればいい。
＊体験学習は1つの手段になるのではないか。仕事以外に社会に還元できるような人間を育成。そういう時にNPOの役割がある。
＊自覚や主体性を持って考えたり行動したりする人の集まりがNPOであり、NPOの役割はますます大きくなっていくと思う。
＊これからのNPOは、企業とタイアップしたり、政治に働きかけたりすべき。
＊ボランティアと市民は異なる。富士山でゴミ拾いをするボランティアは沢山いるが、ゴミを減らすにはどうしたらいいか踏み込んで考える人は少ない。このように踏み込んで考え、行動できる人が市民であり、そうした市民を育てていくことが大切。

討議を終えて

討議を終えて、事務局提案の価値の大切さについては一応理解されたが、社会的に受け入れられるかどうかについては、様々な意見が出された。しかし、これらの価値観は、日本の文化や歴史に裏付けられたものであり、気候風土とも相まって受け継がれてきたことが多いため、日本人には受け入れられやすいのではないかとも考えられる。

そして共通の価値観を育てていくには、やはり教育が大切であるという意見が何人もの方から出された。子供への学校教育はもちろん、家庭教育、子どもを育てる親への教育、また企業での教育の重要性、さらに宗教の求心力などへも意見が及んだ。

また、これら価値観が受け入れられるには、人々の生活のセーフティネットなどによって生まれる社会的余裕が無ければ実現できないと思われ、政治の力も重要になる。

一方、地方と都市との格差、先進国と途上国の格差などが、共通の価値観を持つことへの障害としてあげられた。

さらに、環境文明21は、こういう規範的な価値観をこの世の中に出していく点では有効な役割を果たすが、それを実際、地域で展開していく実行力という点は弱いという指摘を受けた。こうしたご指摘も踏まえ、今後環境文明21の提案が机上の空論とならないよう、さらに視野を広げた活動を進めていく必要がある。